

令和2年度 第1回防府市中小企業振興会議 会議録

日時 令和2年8月6日(木) 午前10時から

場所 市役所1号館3階 南北会議室

出席委員 14名

欠席委員 なし

事務局 9名

1 開会挨拶

【市長】

御多忙の中、防府市中小企業振興会議へ御出席いただき感謝申し上げます。

今回は2月21日の開催、市では1月28日にコロナ対策の本部を立ち上げ、経済危機になるのではないかと前回の会議の時に申し上げたが、その時には、このようなことになるとは想定されていなかったのではないかと考えている。

その後、感染が拡大し、市では4月13日に総合相談窓口をルルサス2階に設置した。既に1,000件を上回る相談を受けているところである。

毎週相談窓口を訪問しているが多くの方の相談がある状況。逆に言えば、中小企業の皆様が大変な状況にあるということを痛感している。

国、県も補正予算を計上しているが、後ほど事務局から説明するが、5月及び6月に予算計上した。

国、県、市の施策ということで、一緒になってやっているが、効果があったところ、そうでないところがあったのではないかと感じている。

本日は、通常の議事とは別に、皆様のコロナの現状について意見等を伺い、今後の市の施策に反映したいと思う。

産業界も一緒になって、取り組まなければ乗り越えられないと考えるので、忌憚のない御意見を賜りたい。

○ 会議成立の報告

【事務局】

14名の委員中、14名の出席で、防府市中小企業振興会議規則第3条第2項の規定に基づき、本会が成立していることの報告。

○ 会議の公開

【事務局】

防府市中小企業振興会議規則第3条第4項の規定により公開とする旨の報告。

2 令和元年度中小企業振興施策の実施状況について

【事務局】

～ 令和元年度中小企業振興施策の実施状況の資料を基に説明 資料2 ～

【会長】

令和元年度事業について委員の皆様の意見をいただきたい。

【A委員】

予算現額と予算額はどのような使い分けになるのか。

10月の資料では予算額となっていた。

【事務局】

予算は途中で補正予算を計上することがあるため、予算の増額あるいは減額をする場合があります、予算現額というのは最終的な額ということ。

【A委員】

資料2の7ページの工場等設置奨励制度、予算現額と決算額がぴったり合致している。予算額の時はずっと大きい数字だったと思うが、決算の数字に合わせるために変更したという理解でよいのか。

【事務局】

当初予算額と予算現額の状況を把握していないため間違った答弁になっているかもしれないが、当初予算で見積もった数字が合致した決算額という場合もあり得る。

【A委員】

前回2月の会議でも、4月から8月の実績の時に、予算額とほぼ同じものが並んでいた。ということは、8月までの実績以降の流れというものが分かるとういと思ったため。

【B委員】

施策の実施状況ということで、中小企業サポートセンター（以下、「コネク22」という。）の現状について説明する。

昨年の6月に立ち上げた。4月、5月は、会議所の1階で行っていた創業支援センターの数字が入っているが、6月立ち上げ以降一気に相談件数が増加し、昨年度一年間で創業相談が161件、経営相談が465件、合計626件となっている。

ここでは、センター長1名と創業担当1名、広報担当1名の3名で対応している。

件数による目標も達成しており、広く事業者の皆様の創業含めて経営相談をしているという状況。4月以降、コロナウイルスの感染拡大の中、一気に経営相談が増加、7月22日までの実績が315件、助成金等含めて相談を受けている。

逆に言うと、昨年の6月に設置しておいて良かったと感じている。市長からもあったが、総合相談窓口での相談が1,100件、県内で最初に、市、会議所、金融機関が連携して設置したもので、ここも一気に増えている。

コネク22は昨年の6月に設置し、情報発信も始めていたので、(コロナに対して)タイミングよく中小企業者の皆様の対応ができたので非常に良かったと感じている。

この中小企業振興会議の中の意見でもあったが、情報を一元化して、ホームページ、フェイスブック等をフル活用して情報発信をしようということで動いてきた。

月別アクセスデータでは、5月の数値でホームページを見た人が6,569人、詳しく見た人が約3,000人いるということになっている。

ホームページもいきなり立ち上げるということではできないので、これも今年の6月から地道に準備してきた結果、この度のコロナウイルスの感染拡大の中、企業が必要とする情報を一元化して発信することができたと考えている。

また、頑張っている事業者に対して応援していくということも忘れずにやっていきたいと考えている。

【C委員】

今、話のあった、コネク22がこのコロナ禍において非常に活躍していることについて耳にしている。相談業務と発信業務、特に発信業務については理想的な形で、ホームページを見られた方の口コミで広がっていると聞いている。金融機関としても連携していきたい。

併せて、山口・防府地域工芸地場産業振興センター（デザインプラザHOFU）についても、（コネク22と）同じようなスタンスで動かれているので、できたら一元化ということも視野にされたらどうかと考える。

【会長】

山口・防府地域工芸地場産業振興センター（デザインプラザHOFU）については、地域商社やまぐちと連携して販路開拓などがあったと思うがその辺はどういう状況なのか。

【C委員】

コネク22でも販路開拓やブランディングなど色々、やっておられると聞いているので、ほぼ同じようなスタンスなのではないか。

【D委員】

輸送業者として、今年度、大手自動車関係の影響で、やはり4月、5月前年8割減とかなり響いているが、色々な補助金等でかなり助かっている。

長期的には、道路事情で富海地区の国道2号線の拡幅が進んでいるが、台道地区は、はっきりしたものが出ていないことや、三田尻大橋から防府第一テクノタウンまでの二車線化ができていないため交通渋滞等が発生しているので、このことを応援していただきたい。

また、港湾の関係だが、新型コロナの関係で、広島県などでは、減免措置が取られているが、山口県はそうした対応がされていない。国交省の港湾局からは7月16日にガイドラインも出ているため、今後も市や関係団体と一緒に県に要望したい。

【会長】

(7) 従業員の雇用環境の整備、雇用の維持及び創出並びに人材の育成というところで、防府公共職業安定所として何かあるか。

【E委員】

最近の状況として、4月から6月の管内の求人は昨年比で減少傾向、求職の状況は前年比で増加している。そのため、求人倍率は昨年比で低下している。新規の求職申込者の中には、事業者都合退職者が多い。非正規労働者が雇止めで退職され求職に来られるというものが、ここ最近の特徴。

ただし、自動車産業も回復の動きがあるため、雇止めがあった方も、派遣会社等に再就職されているのが今の状況である。

【会長】

リーマンショックの後、いわゆる製造業派遣の人で、家計の主たる収入を得ている人たちが派遣社員になっており問題になったと思うが、今回そういう問題は防府市において起きているのか。

【E委員】

前回（リーマンショック時）、防府にいたが、その時と比べると、今回は派遣労働者を対象とした求職者は少ない状況。おそらく自動車産業も回復見込みがあると派遣労働者も見込めている様子で、あまり切迫感はない。

【会長】

雇用調整助成金がある程度続けば、前回のリーマンショックのようなことは起きないだろうということか。

【E委員】

雇用調整助成金については、リーマンショック時は製造業中心。今回は製造業もちろんあるが、特徴としては飲食店、サービス業、小売りなど幅広い業種での利用がある。

【F委員】

資金調達については、色々な支出項目があり、ただ単に補助ということではなく、新たな事業展開に対して各企業が、今動けない状況にあってもどうにか会社を進めていこうという、企業を進化させていくための施策を提出して補助をもらうという形を取っているので、企業が進化するチャンスではないかと思っている。

収益は減っているが、企業としてどう進んでいけばよいかを経営者が考えるいいチャンスと捉えている。

【会長】

令和2年度の事業、具体的に言うとIT化や、通販をやってみるとか、非接触型サービスを増やしていくいい機会と捉え、1月から3月の間でも非常に有用であった。今後もこのことが重要であると認識しているということによろしいか。

【F委員】

まさに非接触型で、これまで人が動き行っていたものを動かずにやるという。当方ではテレワークやリモートワークに関する商品についての相談を多く受けている。

雇用する人材が少なくなっていく中、少人数でどうやって経済を回していくかという考え方で、人が動かない中でも経済を回していくというシフトの仕方を周りも求めているのではないかと感じている。

【会長】

昨年度の事業について考える場合には、12月までと1月以降とをしっかりと分けられないといけない。今日多くの場合、1月から3月までの意見となっている。

B委員の意見にあったように、元々しっかりしたサポート体制が整ったものについては、サポート体制が充実していたことによって1月から3月までうまく機能した。

12月までにやったことが、今回のこの危機に対して機能したということではないか。

もうひとつは情報の質の話で、1月から3月のことになるが、中小企業庁がコロナ関連の情報をかなり積極的に出している。防府の現状を考えた時に中小企業庁などが取りまとめた情報、全国の取り組みや、どんな取り組み方があるのか、それをいち早く取り入れて伝えていく必要がある。

今も実施していると思うが、より一層の工夫をしていただきたいと考える。

3 令和2年度中小企業振興施策について

【事務局】

～ 令和2年度中小企業振興施策について、資料に基づき説明 資料3～
～併せて、次第4で説明予定の令和2年度5月、6月補正予算で計上した事業については関連があるため、資料に基づき説明 資料4～

【会長】

意見を求めるに当たり、意識してもらいたいことが2点。

この時期なのでコロナ対策に集中してしまうのは仕方がないことではあるが、一方でITであったり通販であったりというところは業績を伸ばしている。しかしそれぞれに経営に課題を抱えており相談したいというニーズもあるかと思われるので、やはり両方にきちんと対応しなければいけない。両方に目を配りながら御意見をいただきたい。

【G委員】

事業者への資金繰り支援では国・県・市が手厚い支援策を実施しているため、大半の事業者の方はその利用により資金繰りは安定していると感じている。民間金融機関で利子補給が始まった5月、6月、7月がピークであった。

デジタルシフトの話があったが、インフラとしての銀行も、勤務体制をコントロールしながら入出金や納付等にも対策を取りながら対応している。不特定多数のお客様が来られる中での対応となるため、日本の金融機関のシステムの脆弱性が出ており、現在デジタルシフトを進めようとしている。

法人であればインターネットバンキング、個人ではアプリ、その他、キャッシュレスの推進な

ど進めようとしているが、まだまだ道半ばである。(デジタルシフトが進むと、) 職員がだんだんと不要になってくる。そこを対面でないとできない課題解決への方向へ向ける。地域、事業者、個人のアフターコロナの持続性やライフプランのお手伝いに仕向けられるように金融グループとしては動いている。

【H委員】

補正予算の前提として、民間の会社では、回復基調だが、もとの状態には戻らないという前提で、今までの7割に戻ればよい、いかに黒字を出すかということをやっている。

黒字が出ればよいが出ない場合には、新たなビジネスモデルを作っていないと収入源がないという現実にある。

防府市の場合は、どういう前提で予算を組まれたのか。

【事務局】

5月補正では、市民の皆様の感染拡大の防止。市内の事業者の皆様の方々の今後の事業継続に向けて緊急的に速やかに対策をとるという考え方の元に商工関係の予算を計上している。

特定の業種になってしまったが、活性化策として飲食、観光業を中心として給付金という形で行った、それにより事業継続を図っていただく視点であった。

6月補正については、コロナの終息が今後見えてくるであろうという中で、第二波、第三波を警戒しながら、市民生活の安定、経済のV字回復に向けて、補助金や経済を回すための商品券事業などを防府商工会議所との協議のうえで事業化を進めた。

今後も皆様の御意見をいただきながら予算に反映させていきたい。

【会長】

コロナに直面したときに、守りで資金繰りをというだけではなく、ビジネスモデルを変えていくとか、イノベーションを起こしていく。こういうことへのサポートへの期待が非常に大きい。

補正で緊急に対応することとは別に、長期的に見守ってサポートしていく体制が必要、それはコネク22でやらないといけないことで、どういうことをやっていくのかも考えないといけない。

【B委員】

事業者が新たな取組をしたいという時に問題となるのが、資金調達。

新たな事業を起こそうとする人に対して、ファンドのような形で支援していく防府版のファンドのようなものが必要ではないか。

創業にしろ、ベンチャーにしろ、新たな企業の経営革新を行うところなどにみんなが一緒に支援していく、投資をしていく形が重要、前向きな行動を起こす人への支援が必要ではないか。

同時に雇用調整助成金もあるが、今の施策はどちらかというと守りの部分の支援が多いが、今だからいい人材を採っていかうという企業が出てくる。

そういうところに対して、今の雇用調整助成金は解雇なければ10分の10だが、期間が

100日と3年で150日という縛りがあるので、企業がそれで耐えられればいいが、防府市で製造業、建設業、すそ野が広い企業が多い、その中で前もって準備をする「攻める企業」に対して、人件費、固定費が一番大きいのでそこを支援していくという、雇用調整助成金の逆版のような制度があると、企業も攻めに行くとき新たな人材が必要な時に手厚い支援があるということが、今のこの状況だからこそ必要なのではないかということ、色々な相談を受ける中で感じることもある。

【会長】

危機の時というのは、逆に言うといい人材が取れるチャンスでもある。

新たな商売のネタを見つけていく。地方だと、IT化が遅れているといわれるがそういうところを促進していくといういいチャンスなので、それに向けて戦略的な投資ができるような環境を整えていくということも重要ではないかということでもよろしいか。

H委員が言われたことでいくと、やはり、先ほども非接触型ということを行ったが、コロナの一番の問題は、社会がどのように形成されているのかということにもなるが、ある人が活動をしようとしたときに、マイナスのことが起きるといえる時には、そのことをやらなくなる。要は、市中感染率が高いと経済活動が行われず、市中感染率が見えないとやはり不安になってしまう。そうすると経済活動が抑制されてしまうということが起こる。これは、コロナの性質がどうこうではなく、市民一人一人がどのような認識を持っているのかということに起因するもの。そこをどう払拭していくのか、そういうことで、対人接触が多いサービスはどうしてもマイナスになってしまう。

非接触型の企業は逆に伸びているが、対人接触が多いところはどのようにしていくのか、そういうところを区分けして、それに対してどのような対策をとっていくのかが必要ではないのかということではないかと思う。

今置かれている産業別の状況などを少し細かく見て別の角度からも考えていただきたい。

【H委員】

商売人と行政の現状認識が同じなのかということがわからない。いま商売人は日々命を削ってやっている。

自分の懐からも（金）が出ないという状況の中で、どこまで厳しさが分かって予算付けをしているのかという認識の度合いの部分を知りたい。

【市長】

防府商工会議所と話をし、国、県、市の施策など多数ある中、事業者の方々はそれをご存じない方が多いと考え、相談窓口が必ず必要になってくるということで、4月13日に総合相談窓口を設置した。

総合相談窓口に行ったことによって、国の雇用調整助成金をもらえるようになったということも市民の声として聞いている。

私は、毎週欠かさず総合相談窓口に行き、どういう相談がされているのか聞きながら施策も考えている。しかし、自分はいくまでも行政マン・公務員なので、どこまでいっても、皆様のレベルには達しないとは思いますが、防府商工会議所と話をし、国、県の役割、防府

市の独自あるいは、特徴のあるものは市が責任を持って、関係団体と連携しながら実施していきたい。

今日も御意見が出たが、長期的なもの短期的なものもあるが、来年度当初予算もあるので、その中でどのようにやっていくか、また、金融機関の皆様とも話をしながら、新たな施策も考えていきたい。

できるだけ現場の皆様にあった形で、コロナを乗り越えて全体が前に進む形で取り組んでいきたい。

6月補正にあるように、まずは第二波にならないように衛生対策に力を入れているところではあるが、そうした中でしっかりと前に進んでいきたいと考えている。

4 新型コロナウイルス感染症関連対策について

【会長】

このことについて御意見をいただきたいが、おそらく、新型コロナウイルス感染症対策となると、ワクチンの開発がいつになるのか、薬や医療技術がどうなっていくのかというところに大きく左右される。

これから色々な情報も出てきて、予測しづらい部分はあるが、ワクチンに関しては、早くて来年の前半くらい、国民全体にということもあるので、少なくとも2年間くらいはコロナウイルス感染症への対策が必要ではないかと個人的には考えている。

ここでは、この2年間くらいを想定して何をやっていけばよいかを考えたいので皆様が肌で感じておられる新型コロナウイルスの影響について業界の現状やアイデアなどについて伺う。

【I委員】

大学でもそうだが、遠隔の会議システムを入れて非対面型とし、授業をズームやネット経由にすれば感染防止となり、サービスも実施できるのではと思われがちだが、自分も実際やってみると、全然違うものだとわかった。

単純に非対面型のサービスを導入するという支援があったが、それだけでは足りない。全く同じ授業を遠隔でやるということは、プラスアルファで何かを加えないと、これまでやってきた教育というものが実施できない。

防府市の産業も対面でやらないといけないものは仕方がないが、非対面でやれば済むと考えるものも、それをネットで流せばそれで十分とはならない。プラスアルファで何が必要かを含めた支援制度や支援内容を考える必要がある。

どうすればリモートでも同じ効果が上がるのかということも、事業者と行政が一緒に考えられる体制をとっていただきたい。

【H委員】

印刷業自体が構造的に急降下している最中に追い打ちをかけられたという状況。

弊社では、5月までは前年度並み、6月になると急に売り上げが減少し先が見通せない状況。特に、イベント用の販促物、販促物は人を集めるツールで、今、人が集まらない中、そうしたものが発生していないため、チラシ専門のところは対前年3割程度の売上しかなく、やっ

ていけない状況。資金を借りたところで、利益がない状況では返せないため、どうするのかという業界の状況。返せない状況で資金を借りるところもあるが、自分自身の年齢や後継者を含めて考えた時、自分の子供たちにこれから5年先10年先を託せるのか、よほど新たなものを売りに出さない限り業界の中では正直厳しい。とりあえず、目先をやっているというのが現状。

【C委員】

金融機関では、お客様の資金ニーズに柔軟に応じているつもりだが、お客様の声としては実際のところ先行きが見えないために不安だということがほとんどと思う。

職員の在宅勤務については、個人情報等があるため厳しい状況である。

当方で気を付けていることとしては、過去に経験がない状況で、色々なことが変化して起きているため、窓口から役員まで色々な情報を共有して速やかに対応することに心がけている。

【D委員】

運送業は、今、自動車大手の状況が7月、8月と元に戻りつつあるため、若干明るい兆しは出ているが、コロナの影響で、消毒、マスクなり厳しいことを言われる。

また、市内で罹患者が出ると会社に関係者が居ないかとの問い合わせが入ってくる。また関係者は現場には入れないということがあるので、気を使ってやっている。

今後は、非接触型の機械等の導入も考えていかないといけないとは思っているが、業界としては良いほうではないかと思っている。

業界とは関係ないが、徳山（周南）と防府を比べた場合、まだ防府の方が活性化していると思う。プレミアム付商品券が、もらえないという人のことをかなり聞くので、10月以降に第二弾を考えれば、消費拡大につながるのではないか。

【B委員】

当方の事務局体制としては、総合相談窓口、コネク22、商工会議所で、ある意味リスク分散して機能させていこうとしている。

経済対策事業としてのプレミアム付商品券事業も市と実施しているところだが、効果が出ている。

また他の経済対策事業の一例で、8月1日から実施の「子育て応援飲食クーポン」を既に200枚預かっている小規模店舗もあり、積極的な店とずっと家の中に居た子供たちが出たというタイミングがかみ合った事業となり、飲食店には効果が出ている。

今、商品券も販売しているので市内の経済循環の後押しをしていきたいと考えている。

【E委員】

企業の皆様には雇用を維持していただいていることについて感謝している。

雇用調整助成金についても、調査体制を強化し、2週間で支払えるよう目標をたてやっている。

【会長】

技能実習生が来ないことによって、ある業種や企業で問題になっているということはないか。

【E委員】

技能実習生が事業者の都合で退職して失業給付の手続きに来たという事例はあるが、技能実習生が来ないことによる問題という話しは聞いていない。

【事務局】

技能実習生の話だが、令和元年度、市内に75名の技能実習生がおられ、ベトナム、中国の方が多いが、この状況下で国の出入りができないということで、現在おられる実習生の方は戻れない、又は新たに来られないという状況ということで、現在おられる方が本来1年のところを引継いで在留されているという話は聞いている。

【A委員】

直接企業に関わっていないので、ボランティアとコロナということで。

放課後子ども教室が市内15校区に900名の児童の参加で年間15回から30回くらい子供の居場所づくりと同時に、コミュニティスクールの一環なので、地域の高齢者が活躍する場ということでやっている。コロナの関係で1学期は全て休校、2学期から実施、ただし3密対策で定員を削減、内容も前を向いてやれること、ボランティアのサポーターも高齢者が多いため、検温等実施しながら苦勞して行うことになるが、こういう事業は途切れず行っていく必要があるため、辛抱しながら継続していきたいと考えている。

【J委員】

普段は広告をやりながら、1階の洋品店に加え1年半前に2階にレモニートという飲食店をオープンした。

飲食店がメインではなかったためコロナで打撃を受けたというより、商工会議所のテイクアウト事業に参加して、テイクアウトメインのホットドックなどの提供により、逆に売り上げが増加した。

小規模店舗だが、補助も受けられ、今後の事業展開によっては更に大きな補助金もあるということなので、新規のビジネスモデルを考えている状況である。

【K委員】

中小企業の組合を通じて支援を行っており、毎月80名の組合の情報連絡員から情報をいただいている。コロナの情報について緊急事態宣言解除後、徐々に回復してきてはいるが、コロナ前の状態には程遠いという話が多い。

国、県、市からいろいろな補助金等が出されているが、有り過ぎてこちらでもわからなくなってしまっている現状がある。そのような中、防府市から相談があり、コネク22があるという話をしたが、存在を知らない人もおられるので、さらに知っていただくことも必要ではないかと思う。

【L委員】

旅行会社で、今回コロナの影響を大きく受けている。

4月～6月で前年対比売上が5%未満と散々たる状況。7月に入ってからは話題のGOTOトラベルが始まって来店は確かに増えたが、コロナの拡大もありキャンセルも多い。

コロナの影響で売上げが減ったということで廃業される旅行会社も増えており、事業継承の話も来ているため、生き残ればチャンスと思っているので、そういった体制を整えるためにも人材もしっかり確保して、2年後3年後を見据えて準備をしている。

【M委員】

不動産業の状況だが、コロナ前と後で大きく変わったのが、個人の住宅着工が減少していること。近隣他市に比べても防府の落ち込みは大きい。

賃貸の関係は、飲食店を筆頭にかなり売上げが落ちて、4月はオーナーとの賃料の半額交渉などに忙殺された。半額に減額したオーナーも結構おられる。

テナントに関しては、今回家賃補助が出てきたが、家賃減額に対応されたオーナーには何の保証もないことは不動産業からすると問題だと考えている。

またテナントに関して、休業要請に応えたところには県から補助金が出て、市からも事業継続緊急支援給付金が理美容等に対しては出たが、英会話教室やダンス教室など組合などがなく声を上げづらいところは、補助の対象から外れることにより気持ちが落ち込んで継続する意欲が失われてしまうので、もし第二波が来た場合などには、ぜひ漏れが無いようにしていただきたい。

コロナがいつまで続くかわからないため、大きな買い物を控えている状態、ワクチンができて大丈夫になるまでは、家を買ったり投資をしたりということを控える傾向にある。ただ、これをチャンスととらえている企業もあり、少数だが出店されているところもある。

【G委員】

アフターコロナを見据えて、その間に、地域のこと事業者のこと個人のことの相談に乗れる体制づくりを考えていくことで、いままでの資金の手伝いだけという金融機関の役割を越えた動きに我々も変わっていかうとしているところである。

事業承継、後継者のことも踏まえて、この間にしなければならないと思っている。

自分は7月に着任した、前任は北九州でコロナの緊張感が大分違うのだが、(防府市は)地域の中で魅力がたくさんあるので、それをいわゆる地産地消、サプライチェーン含め観光も含めて地元の中で活性化できることを一緒に考えていける役割になれたらと考えている。

【F委員】

当方も、今年の初めから工場関係の大きな企業の売上がリーマンショックを思い出すほど落ちたが、リーマンと違うのが、大きな企業への売上は落ちたが、売れる商品と購入者の対象が変わったと感じている。

働き方が、数年後に変わる予定であったものが一気に年代を越えてきたというイメージがある。

今はどこにいても仕事ができるという企業が都会を中心にあると思うが、今後この働き方

というものが、コロナが落ち着いても、スタンダードな働き方として残ると思っており、どこにいても仕事ができるという都会の企業の方々を地方に誘導するチャンスだと思っている。

都会と変わらない働く環境というのを準備して街を作っておくこと、この街から新しいものを生むというよりも外から新しいものを入れるという環境づくりが、おそらく今後の防府の発展にもつながるのではないかと思いながら、それに付随する商品・事務用品などを意識して商工会議所にも相談しながら現場づくりを進めていけるのではないかと活動している。

【会長】

全体的な方策として、市中感染率がほとんどないということがわかれば、観光客も来る、ビジネスも問題なくできる。その市中感染率に見合った防御態勢を取ればよいとなってくる。

例えば、月1回PCR検査や抗原検査のサンプル検査をやって、市中感染率を発表し、高めなら抑えていくが、低ければ経済活動をどんどんやってくださいということができればいいのではないか。

皆さんも言われていたが、これを機会として捉えていく。事業承継やM&Aの話もあったが、お年を召されて、今からリスクを取って事業を進めるよりはここで引退しようという人がおられたら、そこに別の会社を付けることによって規模を大きくする。そうすると、防府の産業構造でいうと中小企業の規模が一段上がりより強くしていくということにもなる。その時に、会社を売る側をきちんと対策を取りながら進めていくということなども一つではないか。

今回出なかった話としては、防府には、大企業の関連会社が非常に多い、こういう状況だからこそ防府の関連会社の大企業に対するサポートが厚い、きちんとしたサービスをしていくというような中小企業のネットワークでサービスが提供できるということを進めていくことによって、防府の経済の中心となっているので、そこを安定させて将来的にも大企業がどこに工場を集約させていくかと考えるときに、防府は残さないといけないという状況を作っていく、これも今チャンスではないかと思う。

更に、医療機関、特に街のクリニックなども中小企業なので、ここをきちんと守っていくということも重要。

おそらく市中感染率とかにも関わってくるのではないかと個人的には思っており、市民生活に直結するところである。街を作る時の基礎になってくる医療体制を維持していただける中小企業の保護ということは、コロナ対策としては重要になってくると考える。

我々は、どうしてもニュースは東京の状況を聞くことになる。では、防府市の固定費がどうなのかと、多分相当違う状況と思われる。

そうすると、ちょっとしたサービスを提供するだけで、テイクアウトにするだけで逆にうまくいったという事例も出てくると思う。そういうのを集めて、適切な施策を打っていくということも重要ではないか。

本当に固定費がどのくらいかかっているのか、例えば自分の住宅でやっているということであれば、ほとんど固定費の負担はかからないということもあろうかと思う。

そうすると、少ない資金で守ることができるか、それに改革を進めていけば逆にプラスになっていくこともあると考えるので、是非とも防府の中小企業の現状をきちんと市の方で集約

してそれに合ったものをしていく、例えばハローワークや各銀行や経営者の方々も市と協力して情報を集めてより良い施策を打っていただければと感じている。

5 防府市中小企業振興基本計画について

【事務局】

～ 防府市中小企業振興基本計画について、資料に基づき説明 資料5～

【B委員】

これまで聞いてきた色々な事業者の方々からの意見では、とにかく今まで経験したことがない、先が見えないというところがある。

この中小企業振興基本計画というのは、中小企業の根幹をなす計画だと思うので、企業の経営計画も見直しをかけている現状で、この目標となる基本計画の策定は、やはり慎重にコロナの状況を見ながら、ただ一方で先ほどから意見が出てきているように、攻めの部分と守りの部分をしっかり含め、皆さんの経営の状況等を含めて事前の準備も必要。

今は状況が見えないので、事務局提案のとおりで仕方ないと思う。

【会長】

緊急対策のところは今後も補正等が出てくるかもしれないがお任せして、暫定版のところでは、攻めのところと守りのところその辺は両方をしっかりやっていくということをお願いしたい。

それでは「暫定版」を作るということでよろしいか。

【各委員】

承認。

【会長】

それでは、今年度の見直しを中止し、現在の中小企業振興基本計画の計画期間を延長し、これに「コロナ対策版」を追加した形の「暫定版」を作り、来年度からの事業を実施に対応する。また、新しい計画は、コロナの影響が落ち着いてから策定する。

「暫定版」については、次回会議で事務局から提案を受け当会議で審議を行い、今年度中なるべく早くに完成させるという方向でよろしいか。

それでは各委員の皆様も、市の方へなるべく情報提供していただき、良いものができるように協力をお願いします。

【各委員】

了承。

6 その他

令和元年度 防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の受注状況について

【事務局】

～ 令和元年度 防府市の工事・役務・物件契約における中小企業者の
受注状況について、資料に基づき説明 資料6～

【会長】

本日は有意義な議論ができたと思う。それでは、事務局へお返すする。

【市長】

～ 閉会の挨拶 ～

本日は活発かつ貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響が大きいということで、(防府市中小企業振興基本計画の) 暫定版を認めていただいたが、暫定版の期間が短くなればと願っている。

委員の皆様から色々な御意見をいただいたように、コロナ対策をしっかりと講じると共に、振興基本計画であるが故、前に向かったものであるようにしなければならない。

事業承継、M&Aということもあったが、今が逆にチャンスだとも捉えたい。

このコロナの問題は全国共通の問題である。どの自治体も直面している課題であるので、他の自治体に負けないように職員一同頑張るって参りたい。

長期的には、D委員からの御意見もあったが、台道地区の国道2号線の拡幅についてもしっかりとやっていきたい。道路を大きくすることは、中小企業対策ということだと考える。メーカーからの納入が行いやすくなるということ、そういう観点からもやっていかないといけない、また将来、大企業の再編があった時、防府の工場はしっかりと残るといことも、防府の中小企業にとって大切なことと、安心につながると考える。

会長から、医療機関の問題についても御意見があったが、市としてできることをきめ細かく行って参りたい。

市も皆様の御意見をしっかりと聞いて対応したいと考えるため、委員の皆様も、この会議のみならず、色々な機会に、直接にでも市に対する御意見をいただきたい、それを参考にしながら、補正予算や、新年度予算等、振興基本計画にもしっかりと取り組んで参りたいので、よろしくお願ひ申し上げます。

【事務局】

次回会議は、10月16日金曜日に予定。

【事務局】

以上で、令和2年度第1回中小企業振興会議を終了する。

会議終了 午前11時50分